

新型コロナウイルスに関する行動・意識調査

京都大学大学院都市社会工学専攻
助教 田中皓介

2021年 12月 3日(金)
土木計画学秋大会SS
「COVID19とモビリティのマネジメント」

調査目的

- 「パンデミックに対する被害軽減／レジリエンス確保」実践に貢献しうる基礎データ収集としての、新型コロナの蔓延、および、政府からの国民社会経済活動自粛要請に伴う交通・都市活動、社会活動、経済活動に対するインパクトの把握、および、それらを踏まえたあるべき国土・都市計画、産業構造政策、交通物流政策についての提案。

企画

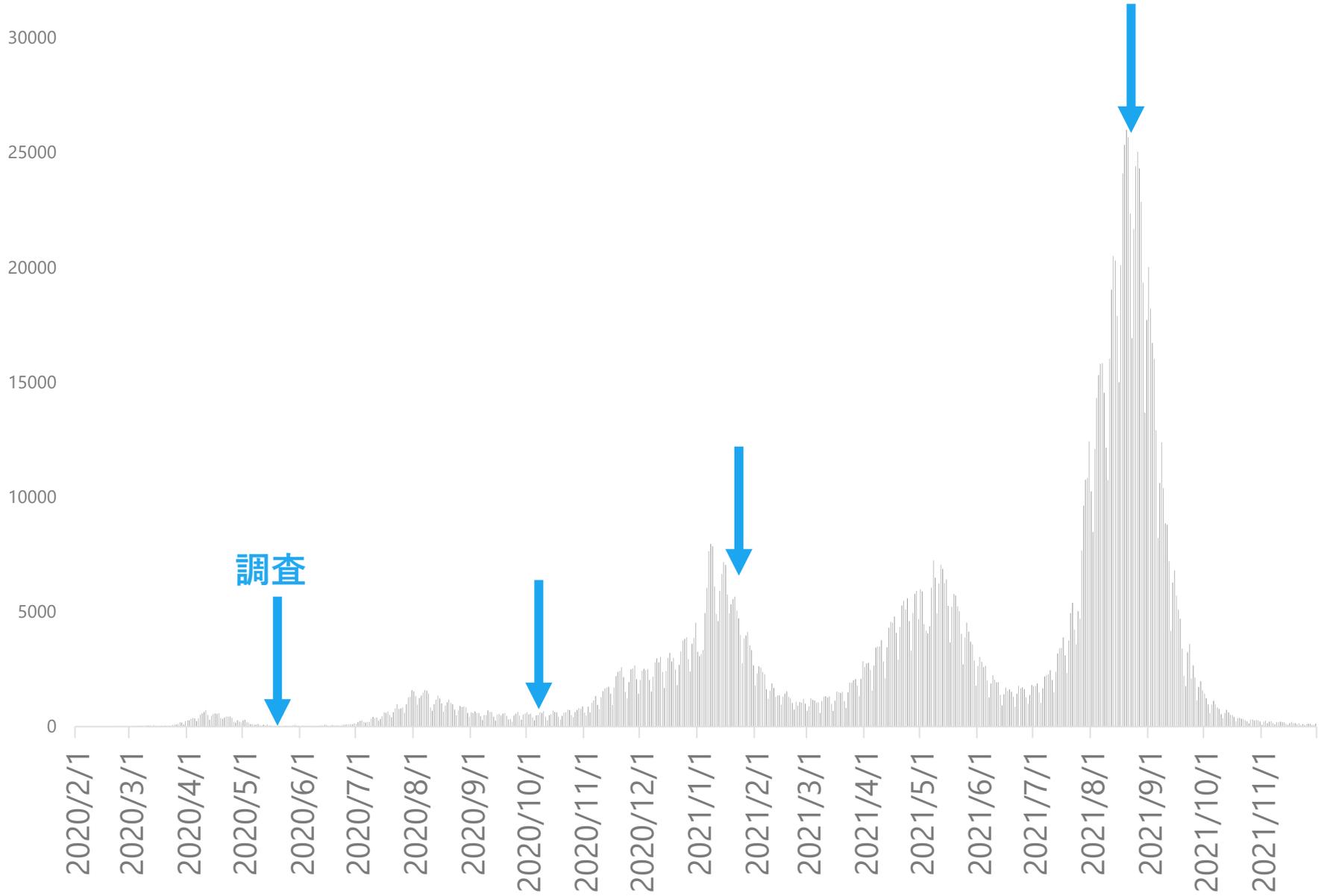
- 土木計画学研究委員会
 - データや詳細は右記QRコードから



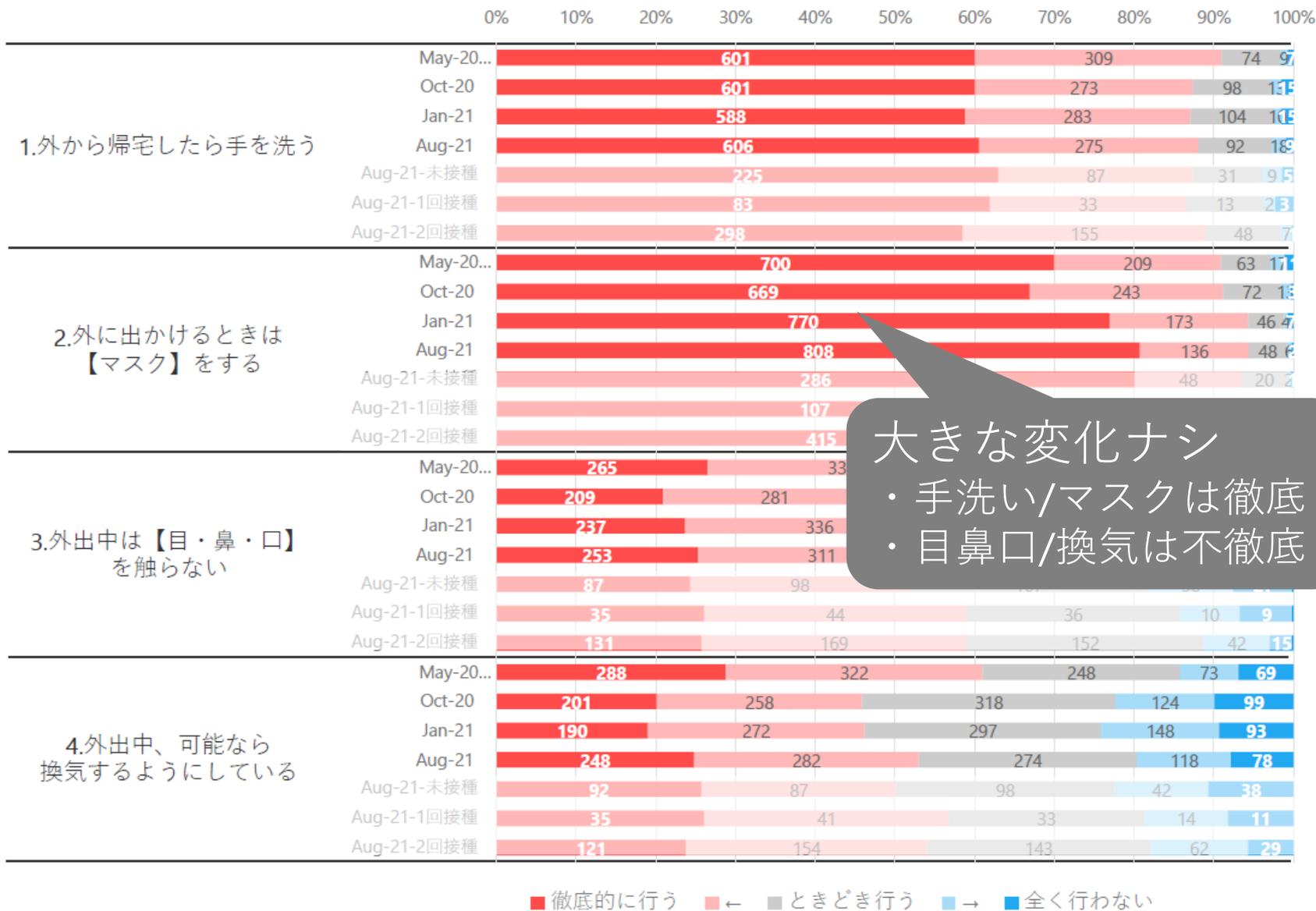
調査

- 手法：Web調査（協力：株式会社サーベイリサーチセンター）
- 時期：1st:5/21~24, 2nd:10/9~10/19, 3rd:1/22~28, 4th:8/20~29
- サンプル：全国1000人（1回～3回継続747、4回目新規145名）

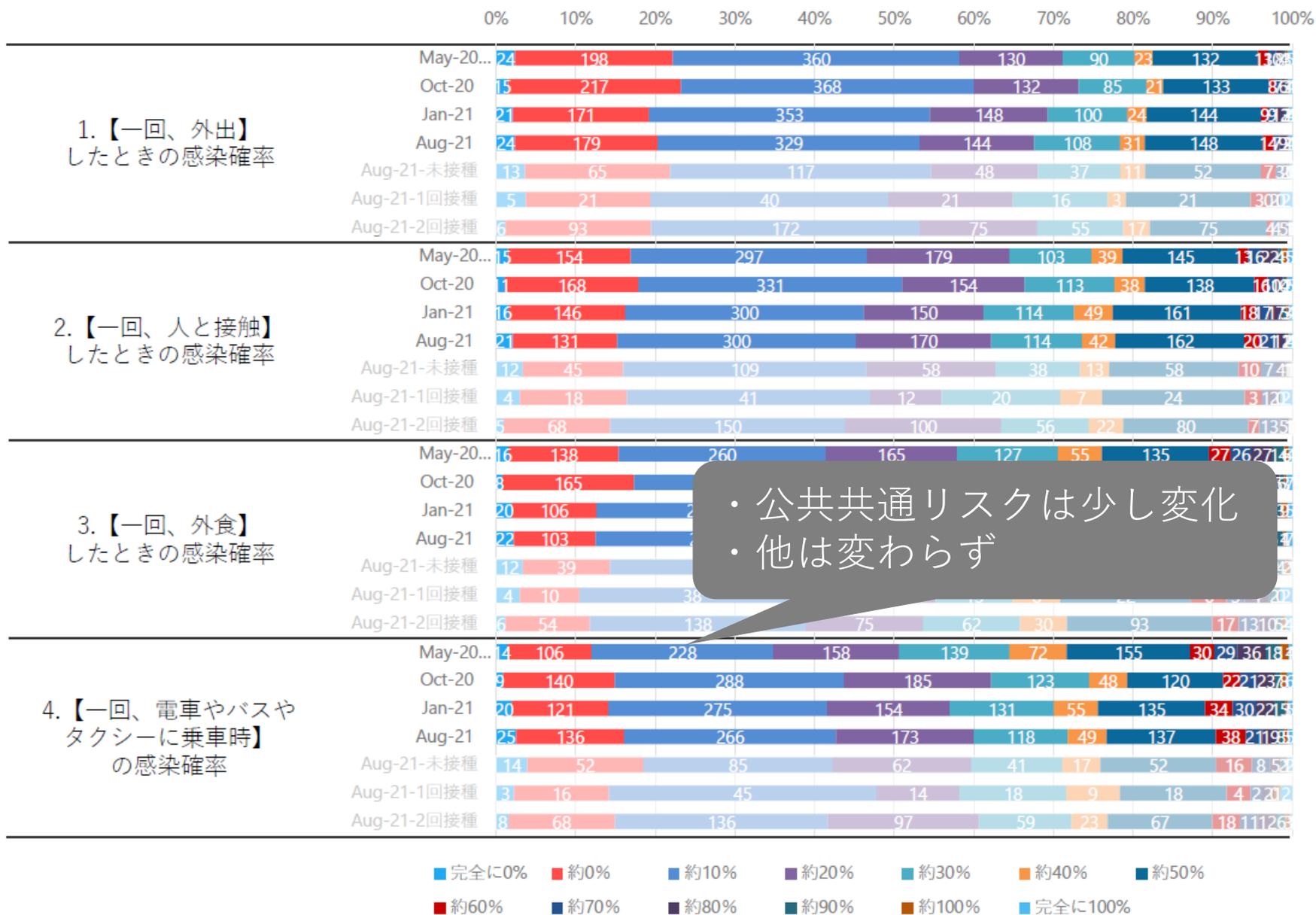
国内の感染者数_1日ごとの発表数 (出典：NHK)



リスク回避行動



感染確率認知



設問	May-20 回答平均 (SD)	Oct-20 回答平均 (SD)	Jan-21 回答平均 (SD)	Aug-21 回答平均 (SD)
感染した人が100人いたとします。その内、誰かに感染させてしまう人は何人くらいいると思いますか？	48.90人 (35.3) ※中央値50人	44.20人 (33.8) ※中央値40人	47.13人 (35.6) ※中央値50人	52.70人 (34.2) ※中央値50人
60歳以上の高齢者が100人感染したとします。その内、何人くらいが死んでしまうと思いますか？（医療は十分と仮定）	26.3人 (25.7) ※中央値20人	20.7人 (23.7) ※中央値10人	20.7人 (22.3) ※中央値10人	18.3人 (22.9) ※中央値10人
40歳以下の人が100人感染したとします。その内、何人くらいが死んでしまうと思いますか？（医療は十分と仮定）	10.8人 (15.4) ※中央値5人	7.8人 (14.3) ※中央値2人	8.4人 (13.5) ※中央値3人	10.2人 (15.7) ※中央値5人

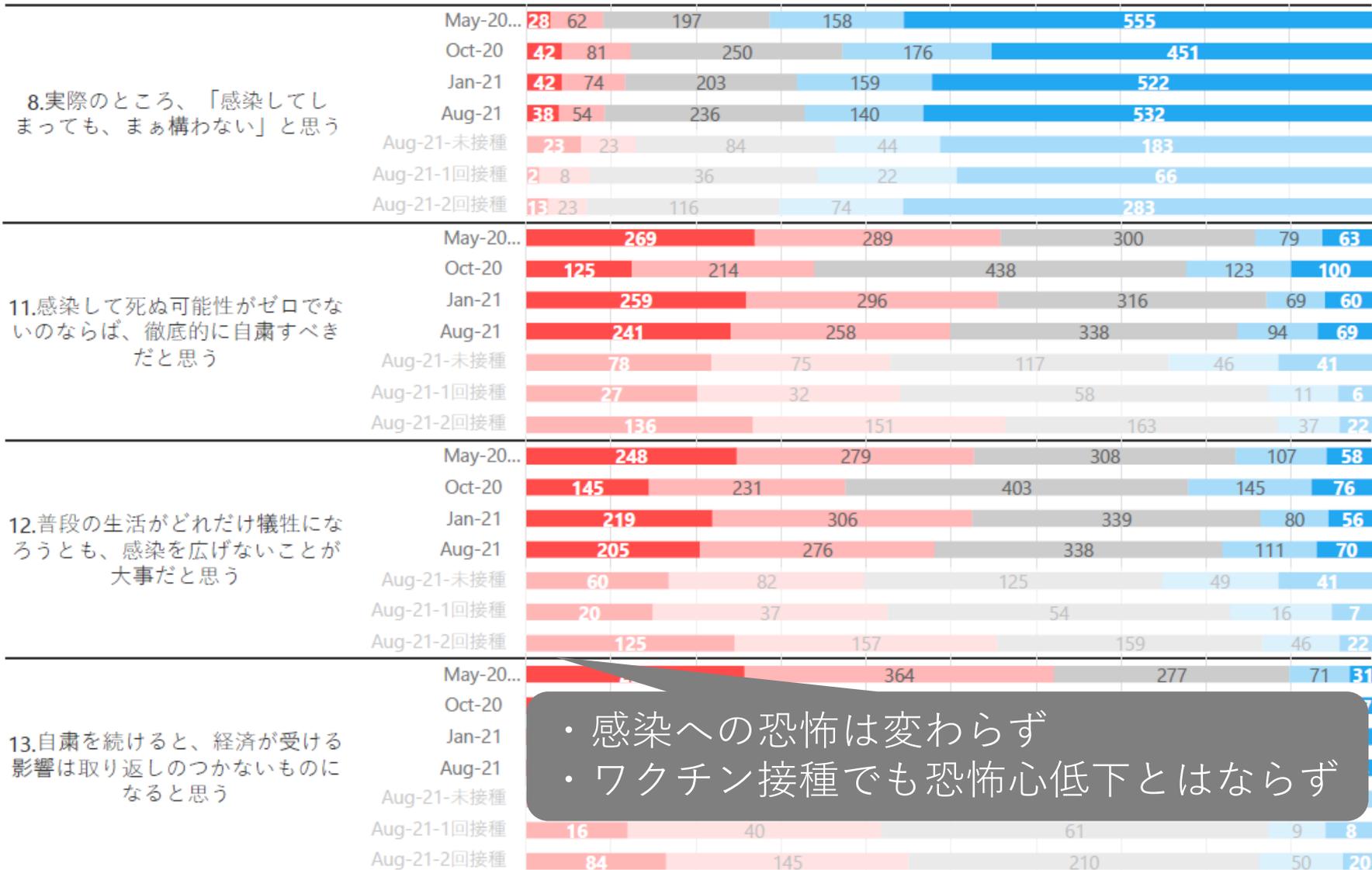
実際は
10人以下

実際は
0.01人以下

- ・ 高齢者死亡率認知は低下(現実に接近)
- ・ 40歳以下死亡率認知は上昇
→デルタ株の影響か？

リスクへの態度

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

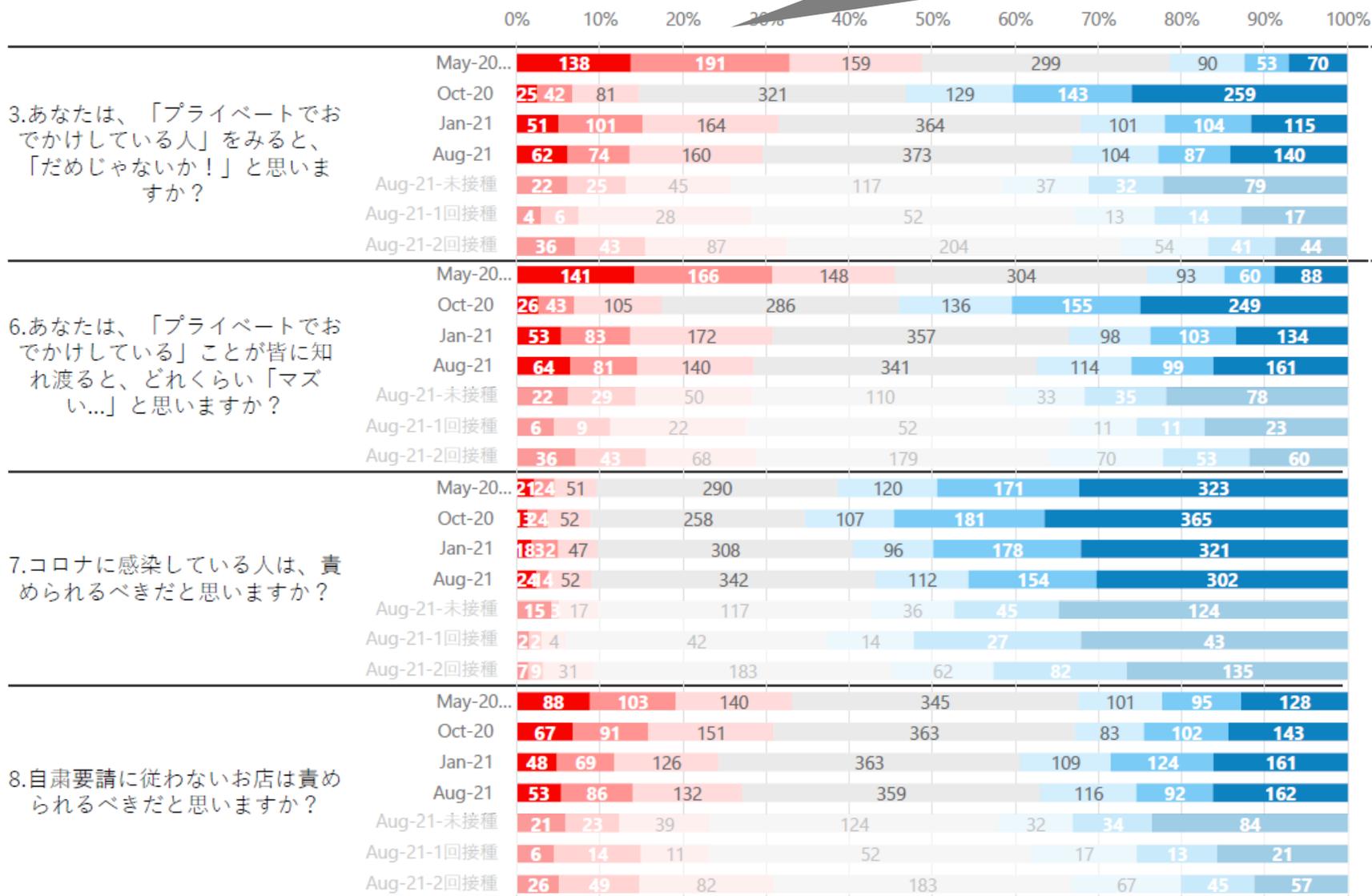


・ 感染への恐怖は変わらず
 ・ ワクチン接種でも恐怖心低下とはならず

■ 強くそう思う ■ ← ■ どちらともいえない ■ → ■ 全くそう思わない

同調圧力

・自粛警察の意識も変わらず



■ 強くそう思う ■ ← ■ ← ■ どちらともいえない ■ → ■ → ■ 全くそう思わない

普段の生活がどれだけ犠牲になろうとも、
感染を広げないことが大事だと思う

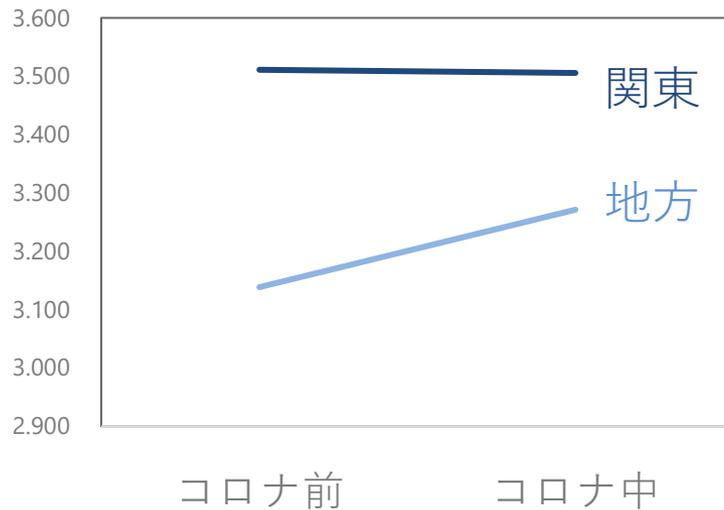
のはどんな人？

- 年齢が高い $r=.165$
- 女性 $r=.130$
- 配偶者と一緒に住んでいる $r=.130$
- 感染対策を徹底している
 - 手洗い $r=.194$ /マスク $r=.215$ /目鼻口 $r=.273$ /換気 $r=.275$ /距離 $r=.322$ /黙食 $r=.345$
- 感染リスクを高く認識している
 - 感染する確率 $r=.173\sim.229$ /感染時に死亡する確率 $r=.111\sim.119$
- ニュース $r=.149$ / 新聞 $r=.097$ から情報を得ている
- SNSから情報を得ていない $r=.107$
- TV司会者 $r=.171$ / 新聞 $r=.136$ / 専門家 $r=.116$ /
家族 $r=.125$ / かかりつけ医 $r=.145$ を参考にしている

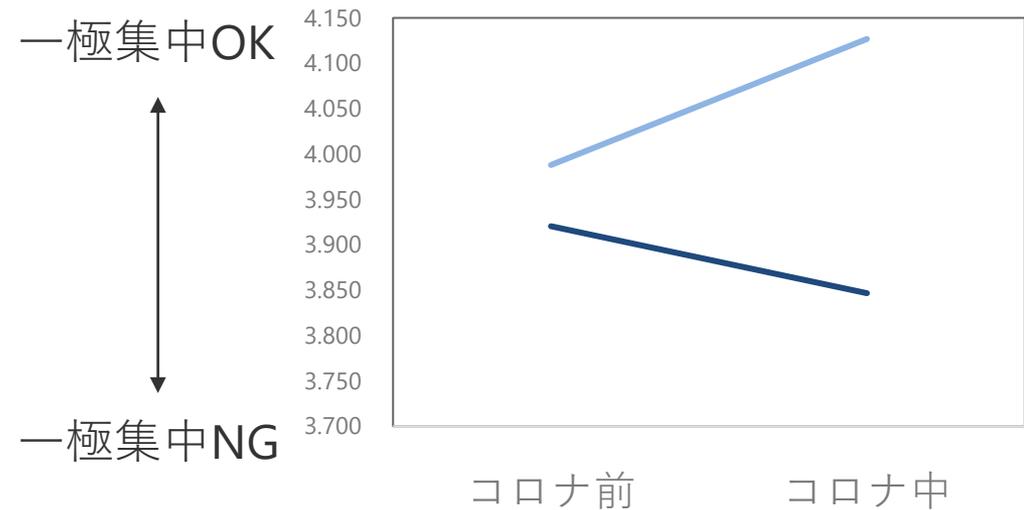
コロナを機に引っ越し(を考え)た人(n=28) はどんな人？

- 若者
- 大学生／配偶者と同居していない
- GoToトラベルを利用しようと思っている
- 自分/家族が感染している(いた)と思っている
- 感染しても構わないと思っている
 - 「感染が怖いから都市部を離れる」というより、
楽天的で自由を求める傾向があると思われる

個人賛否



メディア報道傾向認知



- コロナ禍の経験を経て
関東以外の人びとは一極集中に肯定的に！？
- メディア報道が「東京中心」になっていた影響か
- 関東の人は「混雑がマシになった」という意識変化も
 - 賛否／メリット・デメリット認知などを調査
 - 1回目(n=939)：2020年1月／2回目(n=515)：2021年5月